

佳作

いのちの大切さ

青森県 八戸市立是川小学校三年 山崎 恋奈

いのちの一つしかない大切なものです。おぼんにおばあちゃんのおうちに行って、おばあちゃんからせんそうのお話を聞きました。おばあちゃんのお兄さんは、二十さいでせんそうへ行き、すぐになくなったそうです。大切な家族がなくなりかわいそうに思いました。

せんそうというのは、国と国の争いで人をころしてしまふてもかなしくおそろしいものです。わたしは、せんそうのないへい和な日本に生まれ、今までのいのちのきけんをかんじることなく生活しています。でもほかの国では、テロやミサイルなど、いのちのうばい合いがおこなわれていることを、テレビのニュースで知りました。そんなたかにおびえて、生きるためにひっしな子どもたちもいます。それから、びょうきで毎日くるしみやいたみとたたか

っている人もいます。

そのことを考えると、わたしは毎日家族といっしょにいて、おいしいごはんを食べて、学校や大すきな体そうにかようことができて、温かいお風呂に入ってぐっすりねむることが出来ます。いつもはあたりまえなことが、本当はともしあわせなことなのだとかんじました。

この前、弟が道路にとび出そうとして、あぶなく車にひかれそうになったことがありました。近くで見えていたわたしは、

「あぶない。」

と大きな声でさげびました。お母さんが弟の手をひっぱり大じょうぶでした。家に帰ったあと、お母さんは、わたしと弟をいすにすわらせて、いのちについて話してくれました。もしも死んでしまったら、かなしむ人がたくさんいます。お母さんたちが、すぐくだいにそだててくれていることをかんじました。小さい弟も死ぬというこわさ、大すきな家族と会えなくなることだと知り泣いていました。

いのちについていろいろなことを考えてみて、いのちを大切にすることは、毎日をいっしょうけんめい生きていくことだと学びました。死ぬというのは、

遠いようで、近くにあるものです。だから、もっとがんばっておけばよかったと、こうかいしないように、今けんこうで生きていること、大切な家族や友だちがいることにかんしゃして、せいっぱい生きていきたいです。